

道の駅の将来像及び整備方針

1. PJ会議での道の駅の整備方針の検討結果

7月6日に実施したPJ会議において、道の駅の整備方針についてワークショップを実施した。その結果は以下のとおりであり、この結果を踏まえ、新たな道の駅の整備方針を抽出した。

映える・地域の個性を活かした道の駅

<観光目的地となる道の駅>

- ひとつの観光地 シンボリックな存在
- 観光地までの途中下車（トイレ、飲み物、弁当）をしたくなるような道の駅
- “あそこに行かないと買えない”という土産物のウリがある
- 魅力のある土産物が売られている

<映え・オシャレで使いやすい形状道の駅>

- 画になる、映える道の駅
- 近未来感があるオシャレな道の駅
- 全体的にオシャレなブランドイメージ
- 建物・配置が寄りたくなる形・見た目
- 若い女性の来る道の駅
- ZOOM-ZOOM スタジアムのような何回も行きたくなる、回遊性があり子どもから高齢者までわくわく感ある道の駅
- ガラス張りのようなきれいな入ってみたいトイレ
- 雨に強い全天候型の道の駅

<地域の個性を活かした道の駅>

- 安芸太田町（自然・食）を感じられる道の駅
- 地域の顔・地域の個性を表現したレイアウト
- 地域の殿堂となる道の駅（博物館的なもの、地域のショールーム）
- 町の魅力をスムーズに伝えられる道の駅（自然・観光）
- 観光客が安芸太田のイメージ（自然）を表現した道の駅
- 癒しを求める（都会で疲れ切った体を休める）ような道の駅

町民にも来訪者にも対応した防災拠点

- 防災施設（機能）のある道の駅
- 遊具とともに防災施設がある
- 遊びに来た人も、町民もここに来れば安心できる災害への備え

誰もが安全・安心な道の駅

来訪者
おいしい・わくわくを
届ける道の駅

- 目の届く、身の丈に合う道の駅

+

成長・継続性のある道の駅

- 成長し続ける道の駅
- 継続的ににぎわっている
- 何回来てても楽しめる
- 安芸太田町にまた来たいくなる道の駅
- お客様が応援したくなる道の駅

新しいステージの道の駅へ

地域の食・食事の美味しい道の駅

<地域食材が食べられる道の駅>

- 地域食材（近くの市町も）を利用した食事のできる
- 地域の野菜が食べられる道の駅にしたい（焼き鯖のチシャ、きゅうりのなます）
- 観光もできる道の駅（観光農園で獲れたてをその場で食べられる）

<食の目玉がある道の駅>

- 全国のラーメンが食べられる
- 目的地の途中でも必ず寄りたくなる「おいしい」ものがある
- キッチンカーの“聖地”
- ミシュランの星とるぐらいメシのうまい道の駅

町民+来訪者

出会い・ふれあいの道の駅

人とのふれあい・出会いにつながる道の駅

- 人とのふれあい、思い出に残る道の駅
- 地域の魅力を知り、実感したくなる
- 人と人の出会いが繋がる場所
- この場所が幸福につながる（地域と来訪者が相互に）
- 買物をしている中で人とのふれあいが生まれる
- ここに来たら町内・町外問わず話することができる雰囲気
- 地域の人と語れる道の駅（ジジバコンシェルジュ）

太田川等を活用した遊びの拠点

- 遊び、楽しさを提供
- わくわくランド、鉄道の橋をトロッコで渡るような遊びの提供
- 川を使った遊びの提供
- 高速から直接入れる太田川（さくら公園）を利用した川遊び
- ドッグランがあり、川遊びをしてシャワーを浴びられる、運動してごはんも食べられる道の駅

町民

町の観光・産業のエンジンとなる道の駅

産業の充実と働く場を創出する道の駅

- 加工から販売までできる道の駅
- 町の人々の働く場所、雇用を創出する（農福連携・加工場）
- つくる・加工する・販売する・雇用へつなげる道の駅
- 町民（個人企業）が儲かる！
- 町内の産業がうらおう
- 里山の道の駅の中にも最先端の技術が詰まった道の駅

町民が日常使いする道の駅

<日常的な買い物ができる道の駅>

- 新鮮な野菜がたくさん買える
- 町民もスーパーのように寄れて、町内の野菜や産品が買える産直市
- 町民の方がこぞって利用したくなる（野菜買う、プレゼント買う）道の駅

<町民の交流が盛んな道の駅>

- 町内の子どもから高齢者まで、気軽に立ち寄れる交流スペース（平日）
- 子育て世代が楽しめる道の駅
- 全世代が楽しむことができる道の駅

町民が集い誇りに思える道の駅

地域の人が集まる、来訪者におすすめしたくなる魅力的な道の駅

<町の中心・地域の誇りとなる道の駅>

- 広域の中心になる道の駅
- 町の中心となる、生活の中心、そこに行けば何でもある道の駅
- 町民に必要とされる
- 町の人々が誇りに思える道の駅
- 町民が誇れる（地域資源が伝わる・認められる）

<おすすめの土産物・特産品のある道の駅>

- 町だけでなく周辺地域の特産品がある（近隣市町、県、日本海のもの）
- 親戚や友人に、ここに来たら安芸太田の土産品があると勧めることができる
- 財布の紐が緩くなっちゃう道の駅

2. 道の駅の課題、目指すべき方向性等の再整理の考え方

安芸太田町「道の駅」及び周辺施設再整備基本計画をもとに過年度では道の駅来夢とごうちの重点道の駅申請及び町民意見交換会を実施している。

これら過年度の道の駅に対する課題認識や目指すべき方向性に対し、社会動向や来訪者・町民・行政のニーズを踏まえ、道の駅来夢とごうちの将来像と整備方針を整理する。

第2次安芸太田町長期総合計画【後期基本計画】 R2.3 策定

<基本計画 第6節 産業・観光・しごと>

町内の事業者や起業者の「儲ける力」を促進するとともに、町の自然資源、文化資源等を活用し、交流人口の拡大を図る。

踏まえる

<道の駅整備に大きくかかわる施策>

- 施策 24 農商工連携を進めます
- 施策 25 農業を振興します
- 施策 30 交流人口の拡大による経済波及効果の増加を図ります
- 施策 31 観光地域づくり法人（DMO）の取組を推進します

過年度までの道の駅に対する課題認識・目指すべき方向性

■ 課題

<道の駅周辺のハードに関する課題>

- 道の駅内の回遊性・一体感を高める必要がある
- 渋滞が起こらないような道の駅へのアクセス方法の改善が必要
- 魅力的な景観形成が必要
- 来訪者の期待感を高め、道の駅から各地へと誘導する仕掛けが必要

<道の駅運営ソフトに関する課題>

- インバウンドを誘引する仕掛けが必要
- 町民に愛され、利用される道の駅となる必要がある
- 交通拠点としての情報発信及び機能強化が必要
- 安芸太田町だけでなく、広域の視点で商品等の販売ロットを増やす必要がある
- 新規商品だけでなく、既存商品のブラッシュアップを含めた商品のプロデュースが必要
- 町内の観光スポット等をつなぐ機能を強化し、観光客と観光消費を町内に循環させる必要がある
- 町内にお金を循環させるためには農産物の生産力向上が長期的に必要
- 都市部の消費者の生の声を庁内の生産者にフィードバックすることが必要
- 安芸太田町の魅力を活かし、稼ぐ力を引き出すための関係機関の連携強化が必要

■ 目指す方向性

安芸太田町の魅力に“惚れさせる”ショールームとなる。

本物の魅力は地域にある。道の駅では、その良さを“片鱗を”ショールーム”として見せて、来訪者に安芸太田町の魅力に“惚れさせる”。

町内各地の魅力をつなげる『つなぎ手』となる。

安芸太田町内の自然・文化・歴史等の様々な観光資源や食・地場産業、人的資源等の地域の価値・魅力をつなぎあわせる『つなぎ手』となる道の駅を目指す。

町内外のモノとヒトをつなげる『つなぎ手』となる。

自然、食、人など安芸太田町が持つモノの価値と来訪者・町民を引きあわせる『つなぎ手』となる道の駅を目指す。

町の玄関口
わくわく感あふれる自然と癒しの地域パークへの誘い

多目的ハブ機能
つながることによる価値創造エンジン

■ 道の駅整備にかかわる社会動向

■ 新型コロナウイルスによる生活様式・観光動向の変化

- リモートワーク等の進展による新しい働き方・暮らし方
- 3密を回避した観光地、観光への転換
- 自然・健康志向の高まり
- 地域の生活を守るためのデマンド交通、観光と一体となったMaaS等の活用需要
- ICTを活用した情報発信や商品販売等の活発化

■ 道の駅第3ステージ：『地方創生・観光を加速する拠点』に向けての道の駅の再整備

- 新たなインバウンド観光拠点、多言語対応やキャッシュレスなど基本サービスの充実
- 地域の文化体験など地域ぐるみでの受入環境の充実
- 交通手段と地域、観光施設情報等がまとめて提供されるサービス（観光 MaaS）の導入
- 他の防災施設と連携しながら安全・安心な場を提供
- あらゆる世代が「道の駅」で活躍するための環境を提供（子育て施設、交流施設等）

■ 来訪者ニーズ（Web アンケート）

- 観光ニーズは美味しい食事と自然とのふれあいが高い
- 安芸太田町への来訪目的は、道の駅での飲食・買い物・遊具施設利用が多い
- 安芸太田町での観光で困ることは食事
- 道の駅の主な利用は、最終目的地へ向かう途中の休憩・トイレ利用
- 現在の道の駅について特に困ったことはないが、駐車場やお土産・飲食に対する問題を指摘する声もある
- 新たな道の駅に求めるものは、こだわり食材のレストラン・カフェ、農産物直売所（町内の野菜、果物など）などの食の提供

■ 町民意見交換会・事業者ニーズ（R2 実施）

- 施設等の集約、回遊性の向上
- 町の玄関口としてふさわしい景観形成
- 賑わいを創出したチャレンジショップ、体験・交流スペース
- JRの跡地、河川敷等の活用によるくつろぎスペースの創出
- 誰にでもやさしいユニバーサルデザインの施設
- 車中泊のできる道の駅
- 特色ある商品の提供
- 儲かる仕組みづくり
- SNS等を活用した情報発信力の強化
- 町内の観光地をつなげる仕組み
- アウトドア愛好者をターゲットとした戦略
- 防災の拠点としても活用できる施設

■ 行政考え方（観光・産業振興戦略 WG）

- 町の稼ぐ力の向上と雇用創出のエンジンとなる
- 道の駅を「地域ブランディング」「地域販売・飲食モール」「観光案内・発着地」として再整備
- 町の玄関口として、ハード・ソフト両輪で再整備し、観光のハブとなる
- 民間活力向上のため行政・地域商社一体で環境整備
- 特に農業の生産性を高め、道の駅での販売に力を入れる
- 「農地維持」「耕作放棄地解消」「農家の長寿命化・元気づくり」のための農家の掘り起こし・支援を行う拠点とする
- 営農指導体制構築による地元農産物の充実化に貢献
- 集荷体制の整備とルールづくりの推進拠点
- サステナビリティな施設

道の駅来夢とごうち周辺施設整備基本計画

将来像（案）

みんなで応援したくなる
成長し続ける道の駅

整備方針・整備イメージ（例）

町の観光・産業のエンジンとなる道の駅

- 加工から販売までできる
- 町の人々の働く場所、雇用を創出
- 高速道路 IC 近接の立地性を活かした流通拠点

町民が集い誇りに思える道の駅

- 日常的な買い物ができる、そこに行けば何でもある
- 全世代が楽しむことができる
- 来訪者におすすめできる土産物・特産品で財布の紐が緩くなる
- 地域住民の移動手段となる公共交通（バス）を確保

出会い・ふれあいをつなぐ道の駅

- 道の駅が観光地や人をつなぐ中心となる
- 地域と来訪者が相互に幸福につながるふれあいを提供
- 町の魅力をスムーズに伝える情報発信
- 川や周辺の自然の新しい遊び、楽しさを提供

おいしい・わくわくを届ける道の駅

- 地域の顔・地域の個性を表現した地域の殿堂
- ここでしか味わえない地域食材が食べられる
- 景観にマッチしつつ、オシャレで立ち寄りたくなる

誰もが安全・安心な道の駅

- 施設内の回遊性が高く、安全性が確保
- 誰もが活用できる防災施設、次世代エネルギーへの対応

3. 道の駅の課題への解決策（令和3年度版）

令和2年度の町民・事業者の意見交換会、過年度までの検討内容を踏まえるとともに、令和3年度で実施したプロジェクト会議での意見や近年の社会潮流等を考慮し、道の駅来夢とごうちの再整備に関連する課題と課題の解決方針を以下のように整理した。

整備方針（案）	整備イメージ（例）	安芸太田町及び道の駅来夢とごうちの課題	道の駅 来夢とごうちの抱えている課題の解決方針（案）
町の観光・産業のエンジンとなる道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ● 加工から販売までできる ● 町の人の働く場所、雇用を創出 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生鮮食料品だけではなく、地域の食を活かした加工品等の創出が必要 ● 道の駅を中心とした観光・産業を振興する施策を実行するとともに、道の駅を管理・運営する組織が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅での新たな商品開発（6次産業化）機能の導入 ● e-コマース等の活用による商品販売（商社機能） ● 地域商社あきおたを道の駅の管理・運営組織とし、道の駅と周辺施設を一体的にマネジメントする仕組みの形成
	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路 IC 近接の立地性を活かした流通拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域の農林水産物の流通拠点としての整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高速道路 IC 近接の立地性を活かした流通拠点機能の導入
町民が集い誇りに思える道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常的な買い物ができる、そこに行けば何でもある ● 全世代が楽しむことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町民が日常的に利用できる、集えるような場が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常の買い物に対応可能な直売所、手軽に利用可能な飲食施設の整備 ● 子育て支援機能、交流機能、体験機能等あらゆる世代が交流できる施設の整備（わくわくランド等） ● リモートワーク等の進展による新しい働き方・暮らし方に資する機能・施設の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ● 来訪者におすすめできる土産物・特産品で財布の紐が緩くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 来訪者におすすめできる土産物・特産品の創出が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商品企画・サービスのプロデュース機能の拡充（商社機能）【再掲】
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民の移動手段となる公共交通（バス）を確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通拠点としての機能強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民の移動手段となる公共交通（バス）の確保 ● パーク&ライド^{注1}、キス&ライド^{注2} 拠点としての強化、代行サービス拠点の整備
出会い・ふれあいをつなぐ道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅が観光地や人をつなぐ中心となる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内の観光スポット等をつなぐ機能を強化し、観光客と観光消費を町内に循環させる仕組みが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光客の二次交通手段の確保 ● 交通手段と地域、観光施設情報等がまとめて提供される観光 Maas 等の導入（広島市、宮島、安芸太田町を連携する交通手段とセットとなった観光商品の提供） ● 安芸太田町内の観光施設の連携体制・新たな観光体験のメニューづくり（DMO 機能）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域と来訪者が相互に幸福につながるふれあいを提供 ● 町の魅力をスムーズに伝える情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町の魅力を発信する来訪者へのわかりやすい観光案内が必要 ● インバウンドも誘引する仕掛け、施設整備への対応が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民によるコンシェルジュ機能を持った分かりやすい観光案内の導入 ● インバウンド観光に対応可能な、多言語対応やキャッシュレスなど基本サービスの充実 ● インバウンドにも対応した新たな体験観光のメニューや受け皿づくり（DMO 機能）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 川や周辺の自然の新しい遊び、楽しさを提供 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者ニーズに配慮した道の駅周辺の資源（河川敷・鉄道敷等）を有効に活用した町民と来訪者をつなぐ機能の強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然・健康志向の高まり、3密を回避した河川敷等を活用した施設の整備
おいしい・わくわくを届ける道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の顔・地域の個性を表現した地域の殿堂 ● ここでしか味わえない地域食材が食べられる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道の駅及び周辺の資源を活かしながら来訪者の期待感を高める仕掛けが必要 ● 安芸太田町だけでなく、広域の視点で商品等を増やすことが必要 ● 新規商品、既存商品のブラッシュアップを含めた商品のプロデュースが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● わくわく感を高める魅力的な安芸太田町観光のショールーム的施設の整備（新たな体験施設の追加） ● 町外、周辺道の駅と連携した道の駅で販売する商品（仕入れ品）の拡張（商社機能） ● 地域内産品の集荷体制の強化（商社機能） ● 商品企画・サービスのプロデュース機能の拡充（商社機能）
	<ul style="list-style-type: none"> ● 景観にマッチしつつ、オシャレで立ち寄りたくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 戸河内 IC からの玄関口にふさわしい景観としての魅力化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 戸河内 IC からの景観の魅力化、玄関口としてのしつらえと再整備による景観的一体感の創出
誰もが安全・安心な道の駅	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設内の回遊性が高く、安全性が確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国道 191 号により道の駅が分断され、回遊性・一体感に乏しく安全性確保が必要 ● 渋滞が起こらないような道の駅へのアクセス方法の改善が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一体感のある道の駅施設の再配置と回遊性の強化、歩行者の安全対策 ● 国道 191 号の混雑を解消するスムーズで効率的なアクセス道路の見直し
	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もが活用できる防災施設、次世代エネルギーへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災拠点としての機能強化が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常用電源など防災拠点施設として必要な機能の充実 ● EV・水素ガスなど次世代エネルギーにも対応した施設の整備

注1：パーク&ライドとは、自宅から自家用車で最寄りの駅またはバス停まで行き、自動車を駐車させた後、バスや鉄道などの公共交通機関に乗り換えて通勤や通学などを行うこと

注2：キス&ライドとは、家族に最寄駅まで送迎してもらい、そこから公共交通機関に乗り換えて通勤や通学などを行うこと

※黒文字は過年度までの成果から出た意見、赤文字は社会動向を踏まえた事項、緑文字はPJ会議

※課題の解決方針の太文字はハード整備、細文字はソフト整備